

〔禮記十三玉藻〕凡自稱天子曰予一人、

〔令集解二職〕朱云、一人者天子也、

〔令義解七公式〕御、謂斥至尊、謂一人也、

〔官職難儀〕攝政關白をば大職と申なり、必一座の宣下として、第一に着給ふべきよし宣下あるの故に、一の人と申なり、同字ながらも、一人イチニンと申時は天子の御事なり、よのつねの人の事をば、一人ヒトと申事、誰もゑりたる事ながら、其事々に讀かへる事習ひのうちにてあるなり、

〔本朝文粹十三祭文〕北野天神供御幣并種々物文

右天滿自在天神或鹽梅於天下、輔導一人、或日月於天上、照臨萬民、略中

寛弘九年六月二十五日

〔源平盛衰記三十八〕重國花方帶院宣西國下向同上、洛奉返狀事

平左衛門尉重國、院宣白河ヲ帶シテ西國へ下向、略中彼院宣ニ云、一人聖帝、德安出北關九重之臺

而幸于九州、略下

〔さかゆく花上〕永徳元年三月十一日、ぎやうかう後あり、略中およそいちぢん出給ふ事たやす

からず、千くわん百くわんをどゝのへらる、

〔令義解七公式〕至尊、略中右皆平出、

〔唐六典四禮部〕凡夷夏之通稱、天子曰皇帝、臣下内外兼稱曰至尊、

〔令義解七公式〕御、謂斥至尊、謂一人也、三后亦准此、

〔令義解二職〕神祇官

大嘗、謂嘗新穀以祭神祇也、朝諸神之相嘗祭、夕者供新穀於至尊也、

〔小右記〕長和四年四月七日丙辰、今日中宮女親王、三歳著袴、略中此間至尊、略一渡御、

至尊